



# 本番用紙 イツセー尾形

ある時テレビドラマのリハーサル室で  
台本片手に演技をしていた。思い込みの  
激しい役どころで、その結果登場人物た  
ちをかきまぜるキャラクターだと自分な  
りに理解していた。もちろん決められた  
セリフはこなすのだが、どうも「かきま  
ぜ」に物足りなくて、思いつきのニュア  
ンスでそのつど新しく繰り返していた。  
するとベテラン俳優の方が、

「リハーサルってというのは芝居を決める  
んだから、おまえはリハーサルいらんない  
よ。お、というところは俺もいらんないか  
わいねは」

豪快に笑い飛ばしていただいたおかげ  
で、僕の身勝手な演技リハーサルはお咎  
めを受けずにすんだ。

自分のフィールドである一人芝居はそ  
れこそ毎日違ったニュアンスで、セリフ

そのものもどんどん変えていくやり方な  
ので、たまに大勢の方たちと一緒になる  
ときは迷惑な存在になってしまふ。

飽きっぽいといえはそれも言える。ど  
んどんネタもやり捨てていく。幸いにス  
タッフが公演を逐一ビデオ収録するの  
で、ア、六月の札幌ハーブジョンが欲し  
い!と言ったらすく台本に起こしてく  
れる。

メインの活動がりがこんな具合なの  
で、イラストの仕事も頂いても下描きを  
するごとく飽きてしまふ。いきなり本番  
を迎えることになっている。ところがそ  
う簡単には一発オケとはいかないから、  
まずはA4のコピー用紙をこつと机の  
上に置いてどんどん失敗作を描いてい  
く。ほんの一本の線を描いただけでも  
「だめ」と思ったら次の紙にいく。そ  
うやってだんだん絵らしくなったものが何  
枚目か現れてくるんだけど、そこに例  
えは二人目の人物を描こうとする。こ  
れはまた一からやらなきゃ人物にならな  
かったりする。さすがにコピー用紙とい  
えどもったいなくなつて、優秀な出来栄  
えの紙の上に新しい紙を重ねてトレス  
しようと思つたのだが、線が確実に「ピ  
ンチ」している。やはり全部描き直しだ。  
すべて本番、ほとんどやり直し。これ



イツセー尾形(いっせーおがた) 福岡  
県生まれ。1971年、演出家の森田雄三と  
出会い、演劇活動を始める。80年「パ  
テンによる12の素描」を演じる。翌年、日  
本テレビ「お笑いスター誕生!!」で、8週  
勝ち抜き金賞を獲得。92年に地方公演ス  
タート、93年海外公演を始める。05年  
6月から10月までは、森田雄三によるワー  
クショップ「イツセー尾形ができるまで」と  
公演「イツセー尾形とツツの人々」に参  
加・出演し、全国の公共ホールを巡った。

が演技と同様にイラストでもいえる。た  
だ人に迷惑はかけないで済むけど。  
きちんと下描きをして、計画的に進め  
ることが出来ない。

そして特に旅先でイラストを描くこと  
が多いので、文房具屋さんに行つて、あ  
のずしりとしたコピー用紙を買つてく  
る。で、どうしたことがほんの二、三枚  
描いて完成してしまうことがある。残つ  
た何十枚のコピー用紙、残った罪悪感が  
嫌で、一回だけ、そのままゴミ箱に突  
つ込んだことがある。他にいい紙はない  
ものかと探していたら、あった。大学ノ  
ートの罫線のないやつ。真っ白ページ。  
ノートという気楽さもあるし、「大学」  
という約束されたステータスもある。こ  
こに描かれるものはおのずとある水準を  
持ったものになるだろう、という予感に  
満ちている。絵に飽きたら文字を書  
き、文字に飽きたら絵を描けばいい。こ  
の白い紙たちの一冊で僕はひどく贅沢に  
なれた。

Let's think together! 地球温暖化を防ぐ私たちの小さな一歩

## 温暖化問題解決に向けて、日本の省エネ技術で国際貢献を!

日本の産業界は、長年温室効果ガスの  
排出削減に向けて、技術開発を続けてき  
ました。その結果、製紙  
産業を始めとした多くの  
産業界が、エネルギー効率  
において、現在、世界で  
もトップクラスにありま  
す。



こうした優れた省エネ  
技術を、国内だけでなく、アジアを中心  
とした発展途上地域で、活用を図ってい  
くことも重要ではないでしょうか。

温室効果ガスの排出削減は、世界的な  
規模で取り組むことが肝要です。今後、  
経済の成長にともなう  
CO<sub>2</sub>排出量の増加が見  
込まれる国々に、優れた  
技術が移転されること  
によって、温室効果ガスの  
排出を抑えながら、経済  
発展を続けていくことも  
可能になると思われます。こうしたこと  
が、地球温暖化問題の本質的な解決につ  
ながると、私達は考えます。



今回は12月29日号、熊本マリさんです。

提供 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo : Yohei Maruyama